

会 議 録

会議名 (審議会等名)		相模原市人と動物との共生社会推進懇話会				
事務局 (担当課)		生活衛生課 電話042-769-8347(直通)				
開催日時		平成30年9月20日(木) 午後1時30分～3時				
開催場所		会議室棟 2階 第12会議室				
出席者	委員	8人(別紙のとおり)				
	その他	0人(別紙のとおり)				
	事務局	4人(生活衛生課長、他3人)				
公開の可否		可	不可	一部不可	傍聴者数	1人
公開不可・一部不可の場合は、その理由						
会議次第		1 あいさつ 2 議事 (1)(仮称)動物愛護センター基本構想の検討に向けた課題に関すること (2)「相模原市猫の適正飼養ガイドライン」 「動物愛護事業に携わるボランティアの登録」 「地域猫活動モデル事業の事業化」 の実施状況について 3 意見交換				

審 議 経 過

主な内容は次のとおり。(は委員の発言、 は事務局の発言)

1 あいさつ

課長あいさつ

2 議事

事務局から、(1) 及び (2) について説明し、委員よりご意見をいただいた。

(1) (仮称) 動物愛護センター基本構想の検討に向けた課題に関すること

○市場調査について、公共施設に民間企業が入り民間活力を得ながら運営していくイメージでよいか。

そのとおりである。公民連携の例としては新潟県の 1 例がある。どのような提案があるかはわからないが、(仮称) 動物愛護センター (以下、センター) の強みを感じた民事業者の考え、センターを生かした事業提案について話を聞きたいところである。民間事業者に意見を聞くことによって、今後の人口減少による予算減少の状況でも、持続可能な事業とするための知見を得ることができればと考えている。結果については、公表を行い、本懇話会でも皆様に伝えたい。

設置場所の候補地はあるか。

センターの性質上、用途地域が畜舎となる。また、公共施設マネジメントプランに沿って進める必要がある。模索はしているが、候補地は決定していない。総合計画にはあるのか。

市内に拠点の整備することが決まっているが新たに建設するかどうか場所をどこにするかは決まっていない。既存施設を利用するなど、新築でない手法も整備とみなされる。担当課としては新設ができるように進めていきたいが、財源が限りあることから検討が必要である。

市場調査の対象はどのような企業か。

対象は全国の企業となる。業種については制限をする予定はない。新潟県の主たる代表企業としては建築関係の企業と聞いている。愛護団体等のボランティアと協働できるような拠点としたいため、動物愛護の理解のある企業が手をあげていただければと思う。

募集はハード面なのかソフト面なのか。他自治体の施設では、ボランティアが動物を世話する部屋や、土日にボランティアが動物のケアに訪れることができるような設備があるため参考にしてもらいたい。

ハード面及びソフト面のどちらも受け付ける。将来的な面を含めコンセプトを聞き、アイデアを募りたい。場所が決まるなどした際には、再度市場調査

をする必要があると考えている。

企業がどのように関わることができるか考えて、できることを提案することでよいか。

そのとおりである。場合によっては、行政がハブとなり事業化することもあるかもしれない。行政の考えるセンターにはない民間事業者の考えを取り入れることができるかもしれないと考えている。

規模感や予算等については決まっていないのか。企業に規模や予算を伝えないと、企業側から提案することは難しいのではないか。

内部資料では、ある程度参考として作成はしている。しかし、逆に、提案から規模や予算を考える材料になる可能性もあると考えている。

センターの建設に当たっては、場所が決まらないから規模が定まらないというのではなく、まずどの程度の規模が必要かを現状データから作成し、規模や土地を検討すべきと考える。

これまでの収容頭数等から最低限の規模は検討をしている。今後も検討を進めるところである。

土地の値段から、ボランティアが行きづらい場所となる可能性はあるか。

ボランティアに関わらず、子供の情操教育等の利用のある施設にもなることを考えると、市民が行きやすい場所に設置することがよいと考えている。コストと場所のバランスをみて検討していきたい。

意見として、米軍補給廠の返還地のような住民が行きやすい場所がよいと考える。

シェルターをもつ愛護協会、愛護団体等にも提案等を積極的に聞いてもらいたい。

サウンディング型市場調査要領の公表をする際には、個別の連絡を検討したい。

センターでの対象の動物は何か。

基本的には犬猫である。他自治体では野生動物も対象となる自治体もあるようであるが、民間企業からの意見を含めて検討していきたい。

現状として、犬猫以外の収容依頼の相談があるため、犬猫以外の収容についてもお考えいただきたい。

センターの整備もあるが、それまでの対応として、猫だけではなく犬のボランティアを募集し、活性化をしていってほしい。

広島の話ではあるが、ふるさと納税をもらっていた団体が動物の虐待を行っていたという記事があった。企業の選定についてはどう考えているか。

先方の資産状況等の確認は必要かと考えている。

他自治体で、予算がないために十分な動物の治療できないこと聞いたことがあ

る。そのようなことにならないように、しっかりとした予算をつけていただきたい。

意見としていただきたい。

神奈川県獣医師会と契約している負傷犬猫制度はあるが、センターができることによって制度の変更等はあるのか。

センターにもできることに限りはある。できる範囲でよいので、獣医師会にも意見を伺い、協力をいただきたいと考えている。

ボランティアが動物病院に連れて行く治療費資金として、基金を持っている自治体もあるようだが、同様の基金等を作る際には、ボランティアを補助するのではなく、治療した動物病院を補助する流れのものを検討してはどうか。

動物病院の獣医師が納得できる金額を予算から支払い続けることはできないと思うので、市として臨床のできる獣医師を雇うことが必要と考える。

検討しながら進めていきたい。

アメリカではセンター内に獣医大学が関わるなど、獣医大学とセンターが密接に関わる施設もある。市内に麻布大学があることから、双方で獣医学生の受け入れなど協力体制を検討していただきたい。

今後の課題として、麻布大学とも確認していきたい。

(2) 「相模原市猫の適正飼養ガイドライン」

「動物愛護事業に携わるボランティアの登録」

「地域猫活動モデル事業の事業化」 の実施状況について
意見なし

3 意見交換

特になし

相模原市人と動物との共生社会推進懇話会委員出欠席名簿

	氏 名	所 属 等	備 考	出欠席
1	植竹 勝治	麻布大学	教授	出席
2	鹿山 航	一般社団法人 相模原市獣医師会	獣医師	出席
3	山田 佐代子	公益財団法人 神奈川県動物愛護協会	会長	出席
4	大矢 秀臣	全日本動物輸入業者協議会	事務局長	欠席
5	大木 恵	相模原市自治会連合会	理事	出席
6	大貫 栄	社会福祉法人 相模原市社会福祉協議会	福祉推進課 市民活動係長	出席
7	石丸 雅代	たんぼぼの里	代表	出席
8	山本 和子	相模原市動物愛護推進員		出席
9	川久保 真由美	相模原市動物愛護推進員		出席